第32回BELCA賞 ベストリフォーム部門受賞建築物選考評

大倉集古館

所　在　地　：　東京都港区虎ノ門2-10-3
竣　工　年　：　1927年
改　修　年　：　2019年
用　　途　：　[改修前] 美術館
　　[改修後] 美術館
建物所有者　：　公益財団法人 大倉文化財団
改修設計者　：　株式会社 谷口建築設計研究所、大成建設株式会社 一級建築士事務所、株式会社 森村設計
改修施工者　：　大成建設株式会社 東京支店

日本初の私立美術館として誕生した初代大倉集古館は、1923年関東大震災で被災し多くの収蔵品を失ったが、震災後すぐに復興に取り組み、1928年伊東忠太設計による耐震耐火の陳列館として再び開館した。1962年のホテルオークラ建設に際し、集古館の外周をＬ字型に囲むかたちで収蔵庫・事務所棟が増築され、その後永らく利用され続けてきた。

竣工後100年近く経過するなか、ホテルオークラの建て替えを機に、“国宝を含む貴重な収蔵品を二度と失わないよう永久保存していくこと”、そして“安全に公開展示していくこと”の二つが大きな使命として大倉集古館に課せられた。

解決すべき課題は、①既存建物の免震化、②新しい広場空間の創出、③内外装の補修・修復、④環境に配慮した中長期維持管理計画の立案、の4つであった。

“既存建物の免震化”では、高層ホテル2棟との全体計画と整合性をはかるために約6m西へ曳家することと相まって、地下を増築し、その地下と既存建物を一体化させて基礎免震とすることで建物全体の耐震性能を飛躍的に向上させている。これにより、既存建物に耐震要素を付加する必要がなく、同時に館の内部にEXP.Jが不要になるという、展示館として極めて合理的な建築計画を実現させている。実現にあたっては、既存1階柱脚・基礎と増築地下柱頭部の緊結方法や、既存建物下部での地下構築工法の検討など、極めて難度の高い技術課題に挑戦しており、大いに評価されるものである。

“新しい広場空間の創出“という点では、二つのホテルの軸線に合わせた水盤を中心にしたランドスケープ、増築されていた収蔵庫・事務所棟を撤去することで創建時の外観を取り戻した緑豊かな沿道空間づくり、地域の防災拠点機能など、街区全体の計画として優れた成果を実らせている。

“内外装の補修・修復”では、三次元レーザースキャナーによる計測で欠損していた内部装飾を3Dプリンターで再生するなど、きめ細かな補修修復を行なっている。特に、銅板屋根においては、美しく発錆した既存の緑青銅板をそのまま残すために銅板屋根の二重化工法を開発採用しており、今後同様な屋根の保存修復への展開が期待される。

“環境に配慮した中長期維持管理計画”としては、電力・熱源・給水設備等のインフラをホテルから供給することにより、維持管理における効率性や信頼性を高めている。加えて、免震層を利用して室内環境への熱負荷低減や収蔵庫の温湿度環境維持をはかっていること、空調機械を屋根の構造部材から吊ることで天井に荷重をかけないなど、建築計画と設備計画の整合性が総合的にはかられている。

また、建築そのものの歴史を記録した写真や図面を美術品と同じように展示し、館として施設の長期活用の意志を強く社会に表明している点など、BELCA賞にふさわしい運営がはかられていることを大きく評価する。